

日から通行可能になり、さらにバスの台数も増える可能性がありますので、ぜひ少しでも早い完成をお願いしたいと思います。何かそこで御意見がありましたらお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この件につきましては、担当部長のほうに答弁をさせたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（春田 新一君） 建設部長、原田武茂君。

○建設部長（原田 武茂君） 御質問のほうにお答えさせていただきます。

先ほど市長のほうからも申しましたとおり、令和12年度の完成を目指しておりますが、現時点で進捗のほうが35%と、こちらのほう計画どおりには進んでおりません。

この要因といたしましては、国の補助を受けて事業を実施しておりますので、市のほうからの要望が満額つかない年もございまして、35%という進捗になっている状況です。

答弁しましたように、今後も令和12年度完成を目指して要求をしておりますし、現場のほうを進めていきたいとは思っておりますけども、ここら辺を御理解を少しいただければなというふうには思っております。

よろしくお願いします。

○議長（春田 新一君） 7番、安田壽和君。

○議員（7番 安田 壽和君） すみません、ありがとうございました。ぜひ予定ということですが、少しでも早い完成をお願いしたいと思います。この件につきまして市の財政としても、先ほども言いましたように厳しい状況にあるとは思いますが、地域住民は一日も早い完成を待ち望んでおりますので、どうかよろしくお願いします。

時間はまだ残っておりますが、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、安田壽和君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開を1時55分からとします。

午後1時42分休憩

午後1時55分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。1番、針谷広己君。

○議員（1番 針谷 広己君） 皆さん、こんにちは。新友会、1番議員の針谷広己です。

まずは、先の対馬市議会議員一般選挙におきまして、対馬の多くの皆様から御信託を賜り、当選することができました。改めて深く感謝申し上げます。

届きにくい声を届ける、私針谷広己、選挙期間中から多くの皆様にそう訴えさせていただきました。

届きにくい声というのは、医療、福祉、介護、子育て、何らかの支援を要する方々の声、そういった声を私針谷広己、元市役所の職員として、そして福祉の専門職、社会福祉士として一生懸命訴えてまいりたいと考えております。

そして、対馬市政歴代最年少の議員として、しっかり誠実に、職責を果たしてまいる所存でございます。よろしくお願いいたします。

さて、今回は、2つのテーマを取り上げさせていただきます。

対馬における産婦人科の医療体制について。

そして、庁舎の建て替えにおけるデジタルの利活用について。

深いテーマですが、しっかり議論を交わしたいと考えております。

1点目は、対馬における離島医療と少子化対策としての産婦人科医療体制の維持についてです。

先日、対馬と同じ長崎県の離島、新上五島町において、島内唯一、分娩ができる上五島病院の産婦人科が本年9月末をもって分娩を休止すると報道されました。

以前から、3、4年前から分娩休止の懸念がされていましたが、なすすべもなく、突然の報道に町民の皆さんが戸惑いを隠せない、そんな状況であると新上五島町の方からお話を伺っています。

また、対馬唯一の産婦人科である対馬病院においては、上五島病院と同じく、年々分娩数が減少しており、昨年、2024年度においては、100件を切る81件まで減っているということで、先日の長崎新聞の記事においても対馬病院の八坂院長がコメントで、医療スタッフを確保して医療技術を維持していくことは、離島ではなかなか難しい。そして、継続するために安全な医療の提供が必要と、そうコメントをされています。

分娩数の減少というのは、若年世代が帰ってこない状況、なおかつ少子化が大きな要因ではないかと私考えているのですが、新上五島町と同じく、対馬でも分娩数が減っているということで、対馬島内で子供を産むことができないような状況に陥ってしまうのではないかととても危惧しているところです。

また、産婦人科というのは、産科と婦人科と2つの役割を持っています。

妊婦さんから生まれたばかりの新生児をケアするのが産科。そして女性ならではの疾患、健康問題をケアするのが婦人科です。

産婦人科が対馬でなくなれば、若年世代や子育て世代がやっぱり対馬で暮らしにくくなる。子供を産みたいけれども産めない。あるいは子供を産後育てたいけれどもなかなか育てられない。そんな状況に陥って、市長も人口減少が最重要課題だとおっしゃっていますが、人口減少にも拍

車がかかると考えています。

こうした背景を踏まえて、今回、以下4点についてお伺いします。

まず1点目が、対馬病院における現在の産婦人科の運営状況と課題について。

そして2つ目が、対馬島内の妊婦さんが島外で出産されているケースが多々あると思います。そういったことの現状について。

3点目が、仮に産婦人科を維持するとしたときに、これまで市が取り組まれてきた支援や制度、そういったものについて。

そして4番目が、今後、このような状況に陥っていく中で、市がどのような方針、どのような対策を講じていくのかお伺いできればと思います。

そして、2つ目が市役所庁舎建て替えにおけるデジタルの利活用についてです。

現在、厳原庁舎の建て替えを検討していると。これまでの定例会でも市長さんが発言をされていますが、ただの建物の更新ではなく、更新をするのであれば、デジタル技術を活用した業務の見直し、そして市民サービスの向上、窓口ですね、特に。窓口の業務改善など、そういったことが必要ではないかと考えています。

そういったことを踏まえまして、以下4点についてお伺いします。

まずは、現在の市役所庁舎におけるデジタルインフラの整備状況と課題について。

そして、2つ目が窓口のデジタル化に向けた取組と今後の計画について。

3つ目が庁内のデジタル利活用を推進していくための体制について。

最後、4つ目が新庁舎を仮に建設とするならば、そういったときにどのようなインフラ、デジタルインフラを整備していくのかという計画についてお伺いできたらと思っております。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 針谷議員の質問にお答えいたします。

初めに、現在の対馬病院の産婦人科の運営状況と課題についてでございますが、議員のおっしゃられましたとおり、全国各地の医療機関では、出産数の減少などにより、産婦人科を維持することが困難な状況になっていると私も他方面から聞き及んでおります。

現在、対馬病院の産婦人科は2人の常勤医師で、毎週月曜日から金曜日まで、午前、午後で診療が実施されており、一部を島外の医療機関から医師の派遣を仰ぎながら特に問題もなく、その体制を維持されている状況とお聞きしております。

また、上対馬病院でも隔週ではありますが、木曜日に診察や妊婦検診が実施されている状況であります。

産婦人科に限ったことではありませんが、医師などの医療人材の確保が最大の課題と認識して

おりますので、今後も長崎県病院企業団本部をはじめ、対馬病院、上対馬病院と連携しながら安定的な医療人材の確保により、診療科目の維持に尽力してまいります。

次に、対馬市内における島外出産の現状についてでございますが、対馬市の令和6年度の出生者数は113人で、対馬病院で出産した方は70人。里帰り出産を含みますと81人と把握しております。

43人は、島外の医療機関で出産をしていることとなりますが、直接妊婦に寄り添う市の保健師からの聞き取りによりますと、ハイリスク妊婦を除けば、対馬出身者でない方が地元の島外医療機関で里帰り出産をされている場合がほとんどで、多くの方が安心して島内で出産をされているとのことです。

これからも安心して出産ができる体制維持に向け、対馬病院と連携して取り組んでまいります。

次に、産婦人科の維持に向けた支援制度など、市として具体的な取組があるかとの質問でございますが、市といたしましては、産婦人科に関する支援については、構成団体負担金として総額1億9,882万円を負担しております。

内訳としましては、周産期医療の確保に要する経費として5,742万8,000円、医師の確保に要する経費として2,958万円、医療従事者の確保に要する経費として1億1,118万9,000円となっております。

ただし、医師の確保や医療従事者の確保に要する経費につきましては、産婦人科分は、それらの中の一部として含まれております。

また、構成団体補助金として産婦人科医師派遣に関する費用といたしまして、別途22万1,000円を補助しております。

その他、事業額は少額でありますけれども、上対馬町及び上県町在住者を対象に、交通費や宿泊費などの助成事業として安心出産支援事業を実施しております。

次に、対馬で安心して子供を産み、育てやすい環境を整備していく上での今後の対策、方針についてでございますが、今後も産婦人科はもとより、小児科やその他の診療科目などの医療体制を維持するため、対馬病院をはじめ、市内医療機関と協力し、市民の安全安心を確保することで、子供を産み育てやすい環境整備に取り組んでまいります。

また、あつてはならないこととは認識しておりますが、もし島内で分娩ができなくなるような非常事態が起きた場合は、再開されるまでの間、市として対象者にできる限りの援助もいとわないう覚悟でございます。

ただし、そのようなことのないように、日頃から関係機関と連携してまいります。

これからも医療提供体制の整備、確保につきましては、市民の安全と安心を守るため、最優先課題の一つとして取り組んでまいります。

次に、市役所庁舎建て替えにおけるデジタル利活用についてでございますが、人口減少、デジタル化の急速な進展や多様化する市民ニーズの対応におきまして、これまでの行政サービスをそのまま継続していくことは困難になっていくことが予想されます。

本市のデジタルトランスフォーメーション、DXの推進につきましては、この変革のチャンスを生かして、これまで見直すことが難しかった業務や市民サービスの在り方を抜本的に変えていくことが求められております。

1点目の市役所庁舎におけるデジタルインフラの整備状況と課題についてでございますが、庁内の行政ネットワークは、無線LAN技術とセキュリティー対策において、無線LANより有線LANが安心とされていた合併当時に、データ保護を最優先して有線LANで構築しております。

本市では、一般職全てにLGWAN専用パソコンを導入し、行政ネットワークが整備されている庁舎であれば、どこでも有線LANで接続できる業務環境を構築しております。

またLGWAN専用パソコン運用面においても、所属長の許可で執務室からの持ち出しを認めておりますが、所有する行政情報や決裁方法等は紙媒体のため、現実的に勤務先以外での仕事はやりづらい状況でございます。

そのため、庁舎のデジタルインフラ整備においては、行政情報のデジタル化の移行も一体的に取り組む必要があると考えており、本年度は、電子決裁システムの構築を進めております。

2点目の窓口のデジタル化に向けた取組と今後の計画についてでございますが、窓口業務改革推進指針を昨年度に策定し、デジタル推進課を事務局として市民課、税務課、住民生活課や行政サービスセンター等の窓口業務に関する14部署と行革、人事、財政、庁舎管理等の管理に関する5部署で構成する窓口業務改革部会を設置して本年度より取組を始めたところでございます。

本年度は、デジタル庁の窓口BPRアドバイザー派遣事業を活用し、職員が窓口体験調査を通して市民や職員のそれぞれの視点で見えてくる課題を確認した上で、本市にあった窓口改善を職員自ら発案していく取組に着手しております。

その取組では、市長、副市長をはじめ、部長級職員への報告会や意見交換の機会を設けながら、組織全体で窓口業務改革に取り組んでまいります。

3点目の市役所内の各課の連携や現場主導でのデジタル利活用を進める仕組みについてでございますが、昨年10月に、DX推進アクションプランの策定方針を示し、各課が自らDXに関する組織目標を作成した上で、デジタル推進課が全部署の目標を集約したDX推進アクションプランを本年度に策定してまいります。

DX推進アクションプランの実施期間は、令和8年度から令和11年度までを設定して各課がDXに取り組みながら、その進捗状況や成果を組織内で共有してまいります。

DXに関する組織目標の作成では、各課が専任したDX推進員に対する意識の醸成、知識の習

得に向けた研修会等を昨年度より開催し、各課のリーダー育成を図りながら進めております。

4点目の新庁舎建設に当たってのデジタルインフラの整備についてでございますが、新庁舎建設時のデジタルインフラの整備に当たりましては、市民ニーズ等を踏まえ、窓口業務改革部会等において描いた目指すべき姿を反映し、バックヤード改革も視野に入れながら、新庁舎建設時期は明確に回答できる段階ではございませんが、建築設計の段階から関係部署で協議しながら整備していく予定でございます。

以上であります。

○議長（春田 新一君） 1番、針谷広己君。

○議員（1番 針谷 広己君） 御回答いただきましてありがとうございます。

まず、1点目の産婦人科の維持に関してさらにちょっとお伺いと言いますか、話を進めていきたいと思うんですが、まずは、医師の確保が難しいというところをいかにどうしていくのかといったところ課題だと私針谷広己も感じております。

私自身も長崎県病院企業団の議員にも選出されましたので、私のほうからもしっかり長崎県病院企業団の議会でもしっかりと訴えてまいりたいと考えております。

そして、市長からの答弁を頂きました中で、里帰り出産の方が11名、令和6年度はいらっしゃったというその御報告を頂いたんですが、この里帰り出産の人数の推移というものはあったりするのでしょうか。もしよければお答えいただけたらと思います。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） すいません、ちょっと私、そこまではなかなか把握しておりませんので、担当部長のほうに答弁してもらいます。

○議長（春田 新一君） 保健部長、阿比留正臣君。

○保健部長（阿比留 正臣君） お答えいたします。

里帰り件数につきましては、そのデータを持ち合わせてございませんので、申し訳ございません。

○議長（春田 新一君） 1番、針谷広己君。

○議員（1番 針谷 広己君） ちょっととっぱなしの質問で大変申し訳ありません、というのが、私が仮に対馬病院の分娩数を維持していく方法、いろいろ考えている中で、1つが大きく2つあるので、そのうちの1つがやっぱり里帰り出産の数を増やすっていうこと。

対馬生まれ育ち対馬とルーツがある方々が、実家が対馬にあるとしたときに、やっぱり実家、住みなれた実家に帰ってくるっていうところ、対馬で出産をしていただくっていう、そういった方法も一つ考えられるのかなというふうに思ったところです。

そのためには、今後、対馬病院で分娩ができなくなった際には、島外に出るための交通費だっ

たりとか、そういった宿泊費の補助だったりとか、そういったものも必要だと思うんですけども、ある程度維持していく方法の一つとして、逆に里帰り出産の受入れ体制を強化するっていう方法もゼロではないのかなと思っていたりするのですが、その辺に関してちょっと、もしよければ意見を聞かせていただけたらと思います。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 針谷議員の考えておられるとおりに、確かに里帰り出産等で、この対馬病院の出産数を増やすことは、大変重要なことであろうとは思ってはおりますけども、ただ、今の段階で81名、うち里帰りが11名ということで、まだそこまでは至っていないのかなということで、今後、もしそういったときに、至ったときに、どうしていくのかということを決めるうちから準備していくことは重要であろうというふうには思っております。

○議長（春田 新一君） 1番、針谷広己君。

○議員（1番 針谷 広己君） ありがとうございます。まさにそうなんです。分娩数が本当に減って減って、存続維持が難しいときに、里帰り出産の方々がある程度もしいらっしゃったら、やっぱり存続する理由の一つにもなり得るんじゃないかなと思った次第です。

そして、もう1つ分娩数を増やす方法として、私が今考えて、やはり難しいなと思ったのが、転勤族の方に対馬島内で出産をしていただくと。ただ、市長からも答弁がありましたが、島外で出産する方が43人いて、そのほとんどが島外出身の方っていうことなので、現実的には、なかなか難しいのかなと私は思いました。

あとは、市長から最後、御答弁がありましたが、もし仮に、万が一、産婦人科が対馬島内なくなった場合には、市としては、できる限りの援助はいとわないということで御答弁を頂きまして、私非常にうれしく感じております。というのが、先日、分娩の休止を発表されたのが新上五島町ないしは、そもそも産婦人科がない小値賀町なんかは、妊娠36週を迎えた時点で島外に出ていかないと、島外にいないと出産ができないような状況なんです。

理由としては、分娩施設がないからっていう理由もあるのですが、もう1つは妊娠36週を過ぎると、乗船拒否をされるという事態が起こっているそうで、船にも乗れないという状況で、今、小値賀町や新上五島町では、安心出産支援補助金と言いまして、約1か月近く島外に出て出産をされる場合には、交通費とあるいは宿泊費がどうしてもかかる。その費用の一部を負担しますよっていう、そういった仕組みも導入をされていますので、今後、いつどうなるか分かりませんので、その辺も念頭に踏まえていただきながら、産婦人科の維持に向けてしっかり行政として支援をしていただけたらと考えています。

そして、2つ目に移らせていただきます。

デジタルの利活用に関してということで、私も市役所職員時代に、デジタルの利活用は大変関

わらせていただきました。

やはり、私も自分の市役所時代に、職員個人が持つPC端末、パソコン端末をやっぱり他庁舎に持っていくっていう仕組みが導入されることで、実際に、訪問先の近くの庁舎であったり、あるいは私が当時、佐須奈に勤務をしていましたので、佐須奈から巖原に戻って来て、巖原で空いた時間で業務を遂行することができたということで非常に便利でした。

しかしながら、市長が紙媒体、今、決裁システムであったりあるいは文書管理を紙媒体でしているっていうことで、なかなかパソコンを持ち出しても個人情報等の関係で、なかなか職員の働き方改革が進まないという現状がありましたので、紙媒体の部分を将来的にどうしていくのかっていったところをぜひ御意見をお伺いできたらと思っていますが、いかがでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 将来的には、恐らくこの紙媒体からネット上の中で処理できるようになるものというふうに私も考えておりますけども、その第一段階といたしまして、現在は、決裁等全て紙媒体での決裁でしておりますけども、これをネット上で決裁を済ましていくということで、先ほども答弁させていただきましたけども、今年度からこの電子決裁システムをできるように進めていくということでございます。

○議長（春田 新一君） 1番、針谷広己君。

○議員（1番 針谷 広己君） ありがとうございます。あと、それと併せて、今後、作成される行政文書はデジタル化できるんですけれども、これまで紙媒体として管理されてきた紙媒体の行政文書の今後の取扱い、庁舎の建て替えの際には、やはり執務室などを最大限整備しなければならないので、紙媒体の行政文書の保存等がなかなかスペース的に難しくなってくるのかなんかと思っ
てはいるんですけど、その辺を例えばデジタル化していくとかっていうちょっと考えがあるのか、ちょっとお聞かせいただけたらと思うんですけど。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことにつきましては、以前からも話を聞いておりますけども、これまでの紙媒体でのデータ等は、恐らく将来的には、マイクロチップ的なものに全部集約されて保存がされていくものというふうに思っております。

それで、必要なときに、それをすぐ引き出せるようになるというふうには聞いておりました。

以上です。

○議長（春田 新一君） 1番、針谷広己君。

○議員（1番 針谷 広己君） ありがとうございます。そうですね、やはり紙媒体をどんどん電子化していくことで、市役所職員の業務の改善、働き方の改革にもつながっていくと思うので、ぜひ進めていっていただけたらと思います。

あとは、窓口業務改革部会が開催されて窓口業務をどうにか改善していこうという取組をされているというふうにお伺いしたんですが、その窓口業務改革部会で、例えば具体的にこういうことをやっていこうとか、そういったプランがもしあればお聞かせいただけたらと思いますが。

○議長（春田 新一君） しまづくり推進部長、藤田浩徳君。

○しまづくり推進部長（藤田 浩徳君） お答えいたします。

窓口業務改革部会のほうですけど、今年度は月1回程度会議を実施するというので、年11回の会議を予定しております。

その中で、先ほど市長の答弁にもありましたように、デジタル庁がやっております窓口BPRアドバイザー派遣事業等を活用しまして業務の改善であるとか、システムの活用による窓口のDXを進めていきたいと思っております。

○議長（春田 新一君） 1番、針谷広己君。

○議員（1番 針谷 広己君） 窓口は、やはり、特に働いている方々がなかなか各種行政サービスの申請をする際に行きづらいと言いますか、特に、昼休みでないと行けないという話だったりする一方で、昼休みは、職員さん皆さんお休みの中、窓口対応されているっていう現状がありますので、そこをどうにか改善をしていただけたらなと思います。

あとは、私のほうで少し聞いているのが、住民票等の発行で、キオスク端末みたいなものを導入できないかっていうお話を今、庁舎内で検討がされているとかいないかっていうお話をちょっと伺ったので、そういった人が、窓口の職員がいなくても住民票等が発行できる仕組みであったりとか、そういったものを導入を進めていただけたらと思っています。

あとは、窓口業務改革部会が今、開催されていて、今後、庁舎の建て替えにおいても同様に、そういった部会の意見とかを踏まえながら、庁舎の建て替えを進めていく、そんな話もお伺いすることができて、私針谷広己、とても安心しました。

やはり、デジタルを進めていく上で、やっぱり実際にデジタルを必要としている、そういった業務を抱えている市役所の職員さんであったり、あるいはデジタルを所管する担当部局の方々には、ぜひ庁舎の建て替えあるいは今後、老朽化していく庁舎をどのように整備していくのか、どのように維持活用していくのかっていったところでもしっかり携わっていただけたらと思っています。

早くなりましたが、私の一般質問、以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、針谷広己君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。